乙訓圏域障がい者自立支援協議会「医療的ケア」委員会
障がい福祉サービス等事業所における喀痰吸引等の実施の現状・課題・研修ニーズに関する調査

平成27年7月実施　　回答件数 41
H27.8.14現在

1. 貴事業所の基本情報について

①事業種別をお答えください。

＊障害者総合支援法による事業		
居宅介護		21
重度訪問介護		14
同行援護		6
行動援護		9
重度障害者等包括支援		1
療養介護		0
生活介護		6
短期入所		4
共同生活介護		2
施設入所支援		1
自立訓練　（機能）		0
（生活）		2
地域生活支援事業	（移動支援）	9
	（地域活動支援センター）	4
	（日中一時支援）	2
	（その他）	1
その他		7
＊介護保険法による事業		12
＊その他		5

②運営主体種別をお答えください。

社会福祉法人	16
NPO法人	10
会社（不明）	3
（株式）	5
（有限等）	0
その他	6
無記入	4

③利用者（契約者）のおよその人数（実人数）

10名未満	5
11～20名	5
21～30名	8
31～40名	4
41～50名	2
51～60名	2
61～70名	1
71～80名	5
81名以上	8
無記入	1

④従事者（直接支援・介護にあたる者）のおよその人数（実人数）

10名未満	6
11～20名	12
21～30名	13
31～40名	1
41～50名	1
51～60名	1
61～70名	1
71～80名	1
81名以上	1
無記入	4

2. 平成24年4月施行された「介護職員等による喀痰吸引等の実施のための制度」（以下、「喀痰吸引等制度」）について

①どの程度ご存知ですか？

ア　よく理解している	3
イ　概ね理解している	31
ウ　よくわからない	5
エ　知らない	1

→ ②どのようなことがわかりにくいですか？（複数回答）

ア　どのような行為が可能なのか	4
イ　実施可能な「介護職員等」の範囲	4
ウ　研修の方法	3
エ　事業者の登録の方法	2
オ　加算等報酬上の取り扱い	3
エ　その他	1

③A）その理由はどのようなことですか？（複数回答）

ア　対象となる利用者がいない	1
イ　対象となる利用者はいるが実施希望がない	0
ウ　実施の希望はあるが実施する予定がない	0
エ　その他	0

→ ③B）その理由はどのようなことですか？

ア　従事者の数が足りない	1
イ　従事者の経験不足	1
ウ　研修が受講できていない	1
エ　医師・看護師等の医療職との連携がとれていない	0
オ　登録や記録等事務的な手間がかかりすぎる	0
カ　その他	0

④喀痰吸引等制度について意見・疑問、課題と思われること等について、自由にご記入ください。

・研修費用が高い（利用者ごとに研修をしなければいけない）
・重度訪問介護で訪問しているため採算が合わない。

・事業所全額負担で研修募集しますが希望者3名でした。1人は施設の方に就職されました。訪問介護では長時間拘束はむつかしいです。訪看さんに実地研修で支払するも入院等で終わってしまうこともありました。事業所としては一人々の実地研修にも費用が重んでいます。でも困っている方々のお力にはなりたいといつも思っています。

・研修費用が高い（利用者ごとに研修をしなければいけない）
・重度訪問介護で訪問しているため採算が合わない。

・実施単価が安すぎる。本来、人の命をあずかることが安あがりでいいのか？という意味でね。

3. 貴事業所での喀痰吸引等の実施状況等について

①利用者の中で、喀痰吸引等（「喀痰吸引」及び「経管栄養」）を必要とする方はおられますか？

ア いる	22
イ いない	18
無記入	1

→ ② A) 何名おられますか？ 59

B) 必要とされる行為の種類は何ですか？

ア 喀痰吸引	21 件
口腔内	15
鼻腔内	11
気管カニューレ内	11
人工呼吸器使用	4
イ 経管栄養	15 件
胃ろう	10
腸ろう	0
経鼻経管	6

C) 貴事業所で喀痰吸引等を実施されていますか？

ア 実施している 15 → D) ＊喀痰吸引等を実施している利用者数は何名ですか？ 52

＊喀痰吸引等を実施している利用者の年齢層及び人数は？

就学前児	1
学齢児	5
18～39歳	19
40～64歳	19
65歳以上	10

＊喀痰吸引等を実施している従事者数は何名ですか？ 83

＊実施されている行為の種類は何ですか？

ア 喀痰吸引	15 件
口腔内	13
鼻腔内	8
気管カニューレ内	7
人工呼吸器使用	3
イ 経管栄養	9 件
胃ろう	8
腸ろう	0
経鼻経管	3

イ 実施していない 14 → E) a) その理由をお聞かせください。（複数回答）

ア 従事者の数が足りない	5
イ 従事者の経験不足	7
ウ 研修が受講できていない	8
エ 医師・看護師等の医療職との連携が取れていない	2
オ 報酬上の評価が期待できない	3
カ 登録や記録等事務的な手間がかかりすぎる	3
キ その他	3

b) 今後どのような要件が整えば実施することができると考えられますか？（複数回答）

ア 従事者の増員	4
イ 従事者の経験の積み上げ	7
ウ 研修機会の保証	8
エ 医療職との連携体制の確保	4
オ 加算等経営面での保証	4
カ 事務手続きの簡便化	6
キ その他	0

③喀痰吸引等を実施している従事者に対して、フォローアップ等の取り組みをされていますか？

ア はい 7 →

A)どのような取り組みをされていますか？

・指導看護師による注意点、基礎の説明、年1回。

・関連研修への参加

・保健所等での研修にはなるべく参加するようしている。
・個別に悩み等があった場合は解決できるように指導している。

・入る前、入ってからのヘルパーさんの話を聞いたりその人々の個性の違い等、お話しています。

・年1回、日頃のケアに対しての疑問等を看護師交えてディスカッション

・看護師交えて日々のケアについてディスカッションを行う。(年1回程度)

イ いいえ 10 →

10

B)その理由をお聞かせください。

・業務が多忙のため時間がない。対象となる利用者が少ない。

・人手不足の為、看護師に対応して頂いている事が多いため

・医療的ケアを行っている介護職員が疑問に思うことがあれば、適宜、看護師が指導を行っている。今後はフォローアップの必要性があると考えています。

・実施していないため、フォローアップ等の取り組みはしていないが、実施する機会が増えていくことになったり、従事者への研修等についても検討する予定にしている。

・現在、喀痰吸引等を実施していない。

・平成27年6月末で訪問介護ステーション絆は終了させていただきました。

・指導看護師が同グループに居る為　適宜指導することが出来ると考えていた為

・ほぼ毎日(毎食事)やっているのと、ケアホームへの派遣なのでNSが常駐していて手技等のチェックがされているため

・フォローアップの取り組みとしては行っていないが、必要に応じて従事者の疑問や質問にはベテランのスタッフが対応し答えている。

C)フォローアップ等についての研修の機会があれば、受講を希望されますか？

ア はい 11 →

D)どのような内容があればよいと思われますか？

・平日日中、ヒヤリハット事例などの共有

・日中だけの研修であれば参加できる職員は限られる為、夜間に行う等、実施時間を選択できる方が良い。
・基本的な手技の復習や医療的ケアの危険性やその事例が知りたいです。

・日中だけの研修であれば参加できる職員は限られる為、夜間に行う等、実施時間を選択できる方が良い。
・基本的な手技の復習や医療的ケアの危険性やその事例が知りたいです。

・研修日が複数ある方が関係スタッフがより多く参加できると思います。

・基礎研修のみ修了者6名。実地研修受講までに期間が空き基礎研修内容を忘れてしまう。

・しばらく、実施していない者に対しての復習講義があればありがたい。

・人工呼吸器等でトラブルがあった場合の対応の方法

・利用者様に使用されている機械等や接し方等

体制に影響が少ないときで
・基本に立ちかえった内容　どうしても慣れると手順で動くから

イ いいえ 4

④医療機関との連携について

医師指示書の管理はどこがされていますか？(複数回答)

ア ケアマネジャー	2
イ 相談支援専門員	5
ウ 事業所	16
エ その他	0

A)何か課題はありますか？

・時期的なこともありますが、忙しくされていると思われる為、いつに連絡をすればご迷惑がないか心配になります。福祉事業所が連絡しても良い時間帯があれば連絡がしやすいと思います。

・定期的に往診をして頂いており、特に問題はありません。

・医療機関によって窓口、連絡方法、周知度が違っていて　なかなか連携が取りずらい所もある。

・定着してきたので現在はスムーズにいっているように思う。(書類に関して)

⑤喀痰吸引等の実施に当たり、課題と思われる事、疑問、ご意見等を自由にお聞かせください。

・研修で一度に多くの職員が受講しましたが実施する為に利用者の体調に負担がかかるため期間が長引く

・気管切開をしており、吸引が必要な利用者がいるが、気管カニューレを使用していない為、介護職員による吸引ができない。現在は併設するケアハウスに母親が入居しており、母親が吸引しているが、母親が介助できなくなった時の対応が課題である。

・状態が悪いと慣れるのも時間を要します。緊張の連続です。

・先にものべた通り単価が安い。利用者の価値はそんなものとしか国はとらえてないのかとハラがたつ。

4. 貴事業所での喀痰吸引等研修の受講状況等について

①これまでに貴事業所従事者の方は喀痰吸引等研修を受講されていますか？

ア 受講している 20 [redacted] →

研修種別と人数を教えて下さい

a) 不特定の者対象（第1・第2研修）	6 名
b) 特定の者対象（第3号）研修	129 [redacted] 名

↓

A) a) 実地研修を修了した方は何名ですか？ 111 名

b) 実地研修を修了されていtない方の理由を教えて下さい（複数回答）

ア 対象者の都合	1
イ 受講者の都合（異動や退職等）	1
ウ 基本研修のみの受講（今後に向けて）	1
エ その他	0

イ 受講していない 18 [redacted] →

②その理由を教えて下さい（複数回答）

ア 対象となる利用者がいない	12
イ 対象となる利用者はいるが実施の予定がない	3
ウ 研修についての情報がない	0
エ 受講費用負担が大きい	2
オ 業務等との調整がつかず受講できなかった	2
カ 経過措置の対象のため受講の必要がなかった	0
キ その他	0

③今後喀痰吸引等研修を受講される予定・希望はありますか？

ア ある 15 [redacted] →

④希望される研修種別ごとに従事者の人数を教えて下さい

＊第1・2号研修	1 名
＊第3号研修	25 名

イ ない 16 [redacted] →

⑤その理由を教えて下さい。

ア 対象となる利用者がいない	12
イ 対象となる利用者はいるが実施の予定がない	2
ウ 研修についての情報がない	2
エ 受講費用負担が大きい	5
オ 業務等との調整がつかず受講できない	4
カ 必要な従事者はすべて受講した	1
キ その他	2

⑥喀痰吸引等研修に対する意見・疑問、課題と思われること等について、自由にご記入ください。

・研修を受けても対象となる利用者が限られる。ミス等によるリスクが高すぎる。

・医療行為が厳しく制限されている中、必要な利用者がある現実は分かっているが、喀痰吸引はやはり医療従事者の業務ではないのでしょうか？

・いざ、必要になった時にすぐ認定証がとれず、日々の支援に支障が出るのでは・・と不安が残る。

・ヒン度を増やしてほしい。

・対象者の身体状況により実施者の責任リスクなどを考えると安易に考えることができない。

5 喀痰吸引等で実施可能とされた行為以外の「医療的ケア」について

①利用者に喀痰吸引等制度で実施可能とされた行為（「喀痰吸引」及び「経管栄養」）以外の「医療的ケア」を、日常的に必要とされる方がおられますか？

ア いる 10 →

②どのようなケアを必要とされていますか？

- 導尿
- 摘便、薬を入れての吸入
- 経鼻胃管チューブでの内服介助。
- ストマ装具のパウチにたまった排泄物の処理
- 一包化された内用薬の内服介助
- 研修を受講した後喀痰吸引支援もお願いしますと一人様言われています。
- 薬の仕分け。
- 導尿　吸入
- 浣腸　バルーン異常時の処置
- 導尿　摘便　インシュリン注射

③これらのケアが必要な方への支援について、課題と思われることはどのようなことでしょうか？

- 短期入所利用時看護師配置できない。訪問看護が入れるようにすべき。
- 指導看護師になれるNSが正看のみとなっているので日々関わりをもっている准看でも医ケアが必要な本人と家族から同意が得られれば指導看護師として、福祉職に指導できるようになれば看護師確保や実地指導も進みやすくなると思います。
- 経鼻胃管チューブを内服時に毎回挿入しなければいけないため、内服介助は全て看護師が出勤している時間内で行う必要がある。看護師は土日祝日以外の9:30～18:30で出勤しており、朝食後薬は時間をずらして出勤してすぐに行っている。また土日祝はショートステイをご利用になれない
- 看護師の配置。（人材の確保、人件費の確保）
- ヘルパーでケアができない場合、その時間の支援が提供できなかったり工夫が必要。必要なケアを受けられす生活ができなくなる可能性もある。

イ いない 27

6 その他、喀痰吸引等制度及び「医療的ケア」に関するご意見等がございましたら、ご自由にご記入ください。

・設問3の⑤で記入した通り、気管切開をしているが、気管カニューレを使用していない方の吸引が課題です。この方は、気管切開手術をした直後はカニューレを使用されていましたが、その後、外して様子観察をされ、気管口が縮まらなかったため、カニューレは使用されなくなりました。現在は母親が医師の指導のもと吸引を行っているが、母親が介助できない状況になった場合が困る。施設では看護師は9:30～18:30まで出勤しているがその他の時間は不在となり、土日祝日も不在となります。制度上「カニューレ内」の吸引は認められているがカニューレを使用していあんければ介護職員は吸引できないと思います。カニューレを使用してもらえば解決するのかもわかりませんが、カニューレを使用していた頃は、痰が多くなり、呼吸状態が安定しませんでした。カニューレをしていない現在は、以前と比べ安定しています。カニューレなしでの吸引はリスクが高くなり、カニューレ内に限定されているのもわかるため、対応に困ると思います。

・喀痰吸引等業務実施を実施する必要性やニーズは感じていますが体制的に難しいのが現状です。
特定の医療機関と連携がとれるわけではないので従事者の養成も思うようにすすみません。
今後、必要な利用者がおられた時に第3号で対応できればと考えています。
（当初、1・2号で幅広くと法人の意向もありましたが研修にかかる時間があまりに長く、他の業務に支障をきたすため、これ以上の養成は困難と考えています。

・原則、ヘルパーではなく医療職（NSとか）が専門性をもって実施できるよう制度を拡充してほしい。

1

乙訓圏域障がい者自立支援協議会「医療的ケア」委員会
障がい福祉サービス等事業所における喀痰吸引等の実施の現状・課題・研修ニーズに関する調査
平成27年7月実施　　回答件数 38

1.貴事業所の基本情報

① 事業種別(複数回答)

＊障害者総合支援法による事業

・居宅介護	19
・重度訪問介護	13
・同行援護	5
・行動援護	9
・重度障害者等包括支援	1
・療養介護	0
・生活介護	6
・短期入所	4
・共同生活介護	2
・施設入所支援	1
・自立訓練(機能)	0
・自立訓練(生活)	2
・地域生活支援事業(移動支援)	8
(地域活動支援センター)	3
(日中一時支援)	2
(その他)	1
・その他	7
＊介護保険法による事業	12
＊その他	5

② 運営主体種別

・社会福祉法人	16
・NPO法人	8
・会社(不明)	3
・会社(株式)	4
・会社(有限等)	0
・その他	6
・無記入	1

③ 利用者(契約者)のおよその実人数

・10名未満	4
・11～20名	4
・21～30名	7
・31～40名	4
・41～50名	2
・51～60名	2
・61～70名	1
・71～80名	5
・81名以上	8
・無記入	1

④ 従事者(直接支援・介護)のおよその実人数

・10名未満	6
・11～20名	11
・21～30名	11
・31～40名	1
・41～50名	1
・51～60名	1
・61～70名	1
・71～80名	1
・81名以上	1
・無記入	4

2. 平成24年4月に施行された「介護職員等による喀痰吸引等の実施のための制度」(以下、「喀痰吸
について

①喀痰吸引等制度について理解度

ア よく理解している	3
イ 概ね理解している	30
ウ よくわからない	4
エ 知らない	1

② 2－①で「ウよくわからない」と回答 どのようなことがわかりにくいですか？(複数回答)

ア どのような行為が可能なのか	3
イ 実施可能な「介護職員等」の範囲	3
ウ 研修の方法	3
エ 事業者の登録の方法	2
オ 加算等報酬上の取り扱い	3
カ その他	1

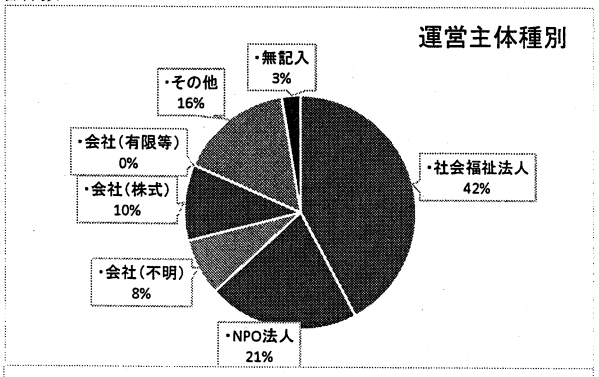
③ 2－①で「エ 知らない」と回答

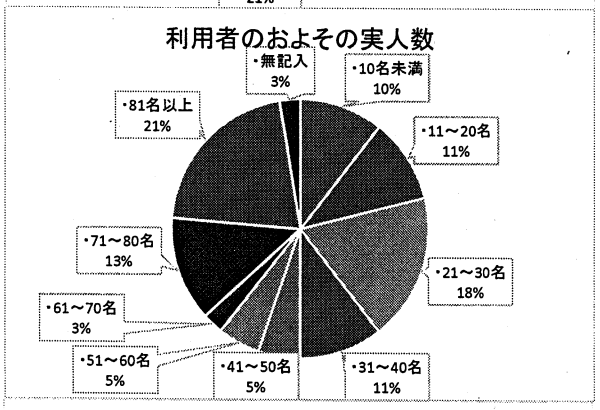
A)理由　(複数回答)

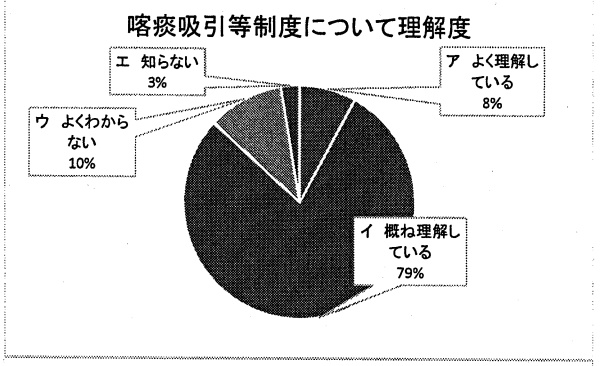
ア 対象となる利用者がいない	1
イ 対象となる利用者はいるが実施希望がない	0
ウ 実施の希望はあるが実施する予定がない	0
エ その他	0

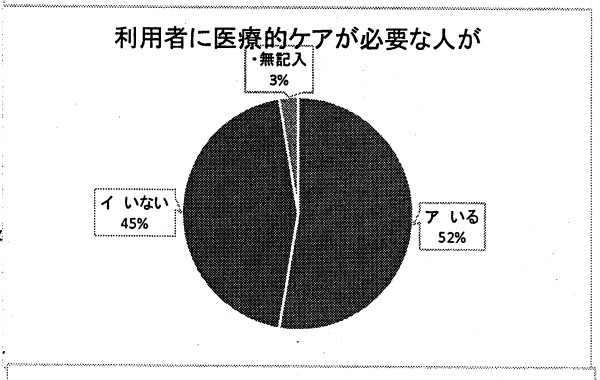
B) 2－③Aで「ウ 実施の希望はあるが実施する予定がない」と回答 その理由(複数回

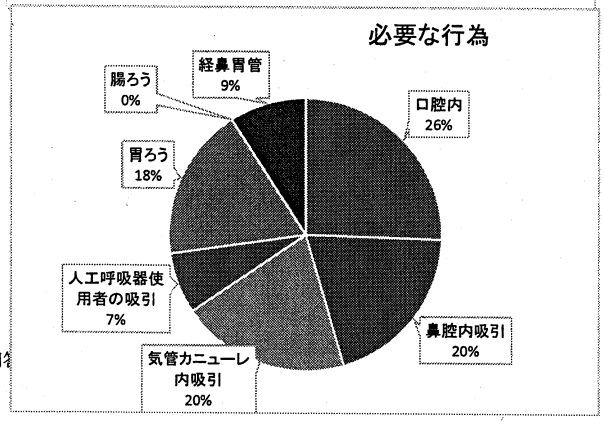
ア 従事者の数が足りない	1
イ 従事者の経験不足	1











ウ 研修が受講できていない	1
エ 医師・看護師等医療職との連携が取れていない	0
オ 登録や記録等事務的な手間がかかりすぎる	0
カ その他	0

④ 喀痰吸引等制度について意見・疑問、課題とおもわれること。 別記1

3 貴事業所での喀痰吸引等の実施状況等について

① 利用者の中で、喀痰吸引等（「喀痰吸引」及び「経管栄養」）を必要とする方が

ア いる	20
イ いない	17
・無記入	1

② 3－①で「ア いる」と回答

A）実人数 57

B）必要とされる行為の種類（複数回答）

ア 喀痰吸引	20
口腔内	14
鼻腔内吸引	11
気管カニューレ内吸引	11
人工呼吸器使用者の吸引	4
イ 経管栄養	14
胃ろう	10
腸ろう	0
経鼻胃管	5

C）喀痰吸引等の実施有無

ア 実施している	15
イ 実施していない	12

D） 3－②－Cで「ア 実施している」と回答された方へ 実施状況

＊喀痰吸引等実施利用者数（実人数）	52

＊喀痰吸引等実施利用者の年齢層及び実人数

・就学前児	1
・学齢児（小・中・高）	5
・18歳以上～39歳	19
・40歳～64歳	19
・65歳以上	10
＊喀痰吸引等を実施している従事者数（実人数）	83

＊実施行為の種類（複数回答）

ア 喀痰吸引	15
口腔内	13
鼻腔内吸引	8
気管カニューレ内吸引	7
人工呼吸器使用者の吸引	3
イ 経管栄養	9
胃ろう	8
腸ろう	0
経鼻胃管	3

E） 3－④－Cで「イ 実施していない」と回答

a）理由（複数回答）

ア 従事者の数が足りない	5
イ 従事者の経験不足	6
ウ 研修が受講できていない	7
エ 医師・看護師等医療職との連携が取れていない	2
オ 報酬上の評価が期待できない	3
カ 登録や記録等事務的な手間がかかりすぎる	2
キ その他	2

b）今後、どのような要件が整えば実施することができると考えられますか？（複数回答

ア 従事者の増員	4
イ 従事者の経験の積み上げ	6
ウ 研修機会の保証	7
エ 医療職との連携体制の確保	3
オ 加算等経営面での保証	4
カ 事務手続きの簡便化	5
キ その他	0

③ 喀痰吸引等を実施している従事者に対して、フォローアップ等の取り組みをされていますか

ア はい	7
イ いいえ	9

A）上記「ア はい」と回答された方へ どのような取り組みをされていますか？ 別記2

B）上記「イ いいえ」と回答された方へ その理由は？ 別記3

C）フォローアップ等についての研修の機会があれば、受講を希望されますか？

ア はい	10
イ いいえ	4

D）上記「ア はい」と回答された方へ どのような内容があればよいと思うか？ 別記4

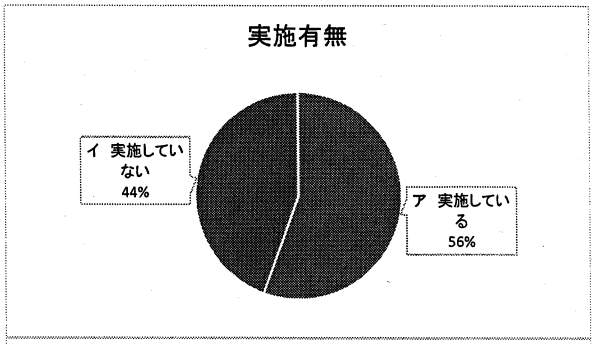
④ 医療機関との連携について、医師指示書の管理はどこがされていますか？

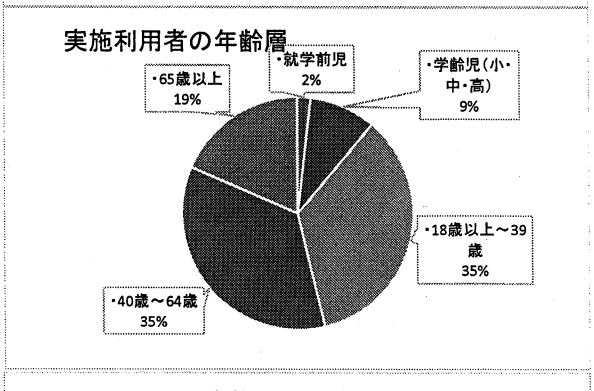
ア ケアマネジャー	2
イ 相談支援専門員	4
ウ 事業所	16
エ その他	0

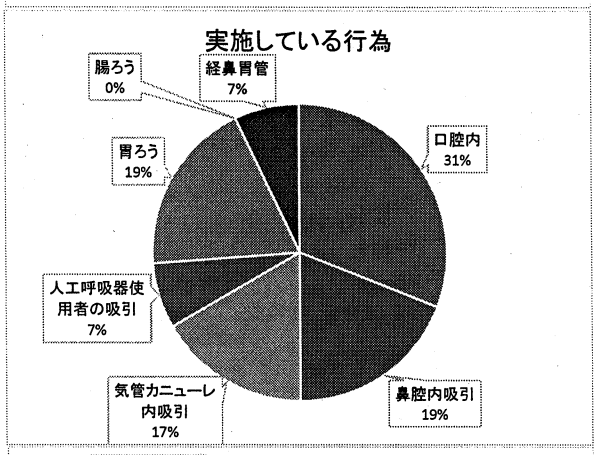
A）医療機関との連携について、課題は？ 別記5

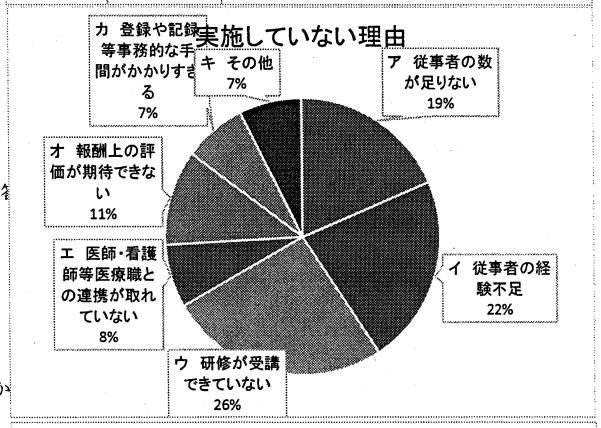
⑤ 喀痰吸引等の実施に当たり、課題、疑問 ご意見等 別記6

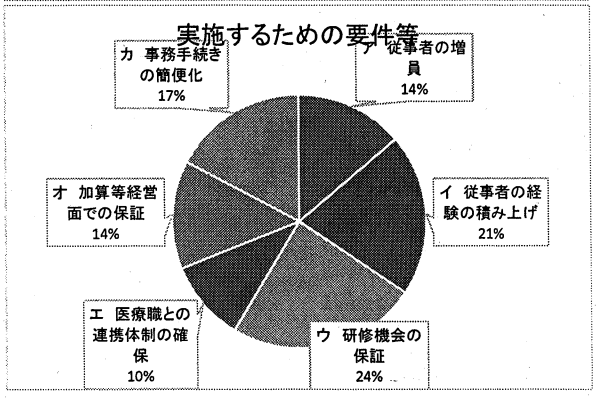
4 貴事業所での喀痰吸引等研修の受講状況について











① これまでに従事者の喀痰吸引等研修の受講有無

ア 受講している	19
a)不特定の者対象(第1・2号):人数	6
b)特定の者対象(第3号):人数	127
イ 受講していない:事業所数	16

A)上記4－①－アで「b 特定の者対象(第3号)研修」の人数のうち

a)実地研修を修了した方は何名ですか?	109
b)実地研修を修了されていない方の理由	
ア 対象者の都合	1
イ 受講者の都合(移動や退職等)	1
ウ 基本研修のみの受講(今後に向けて)	1
エ その他	0

② 4－①で「イ 受講していない」と回答された方へ その理由(複数回答)

ア 対象となる利用者がいない	11
イ 対象となる利用者はいるが実施の予定がない	2
ウ 研修についての情報がない	0
エ 受講費用負担が大きい	2
オ 業務等との調整がつかず受講できなかった	2
カ 経過措置の対象のため受講の必要がなかった	0
キ その他	0

③ 今後、喀痰吸引等研修を受講予定・希望

ア ある	15
イ ない	14

④ 4－③で「ア ある」と回答された方へ 希望される研修種別ごとに従事者の人数

＊第1・2号	1
＊第3号	25

⑤ 4－③で「イ ない」と回答された方へ 理由(複数回答)

ア 対象となる利用者がいない	11
イ 対象となる利用者はいるが実施の予定がない	1
ウ 研修についての情報がない	2
エ 受講費用負担が大きい	5
オ 業務等との調整がつかず受講できない	4
カ 必要な従事者はすべて受講した	1
キ その他	2

⑥ 喀痰吸引等研修に対する意見・疑問、課題等 別記7

5. 喀痰吸引等制度で実施可能とされた行為以外の「医療的ケア」について

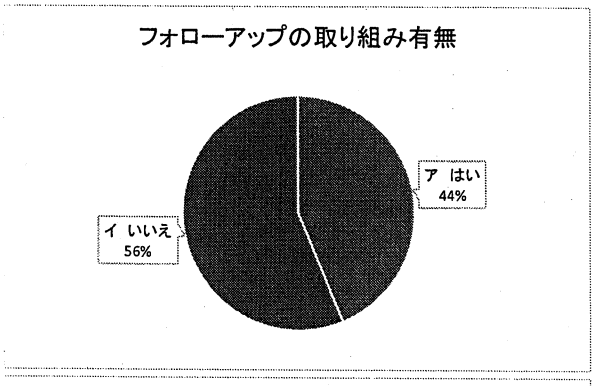
① 利用者に喀痰吸引等制度で実施可能とされた行為以外の「医療的ケア」を、日常的に必要

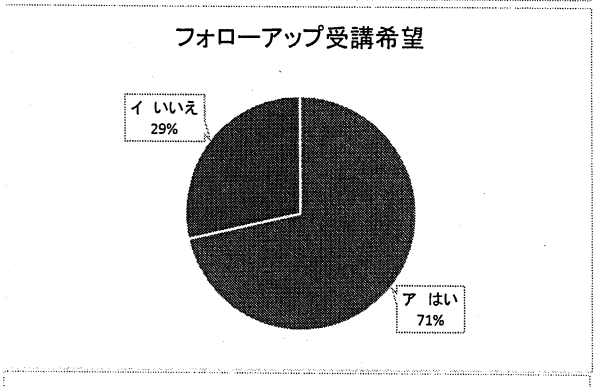
ア いる	10
イ いない	24

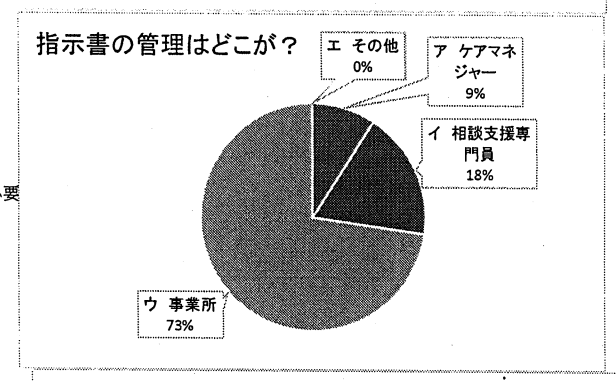
② 上記5-①で「ア いる」と回答された方へ どのようなケアを必要とされていますか? 別記8

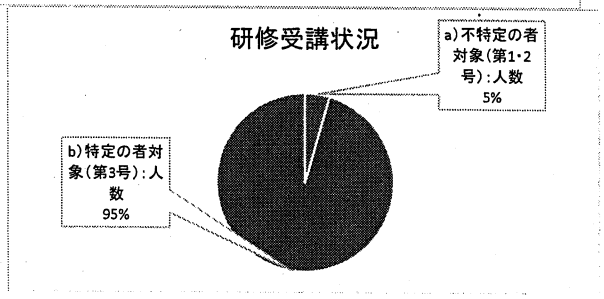
③ これらのケアが必要な方への支援について、課題と思われることはどのようなことでしょうか? 別記9

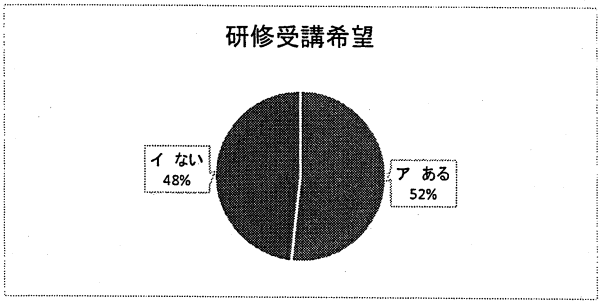
6 その他、喀痰吸引等制度及び「医療的ケア」に関するご意見等 別記10

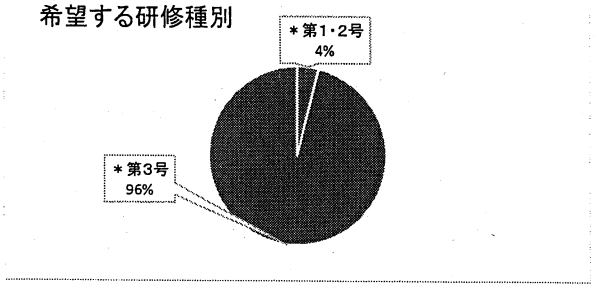












			事業所数	制度理解（よく理解・概ね理解）		必要な人が「いる」		喀痰吸引等の実施		研修受講状況（受講した）		今後の研修希望あり	
				実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
①事業種別	a	訪問系	21	20	95.2	13	61.9	7	33.3	12	57.1	6	28.6
	b	通所系	9	7	77.8	4	44.4	4	44.4	4	44.4	5	55.6
	c	入所系	3	3	100.0	2	66.7	2	66.7	2	66.7	2	66.7
	d	短期・日中	5	3	60.0	2	40.0	2	40.0	2	40.0	3	60.0
	e	その他	6	4	66.7	2	33.3	1	16.7	1	16.7	0	0.0
②運営主体	a	社福	16	16	100.0	14	87.5	11	68.8	14	87.5	13	81.3
	b	NPO	10	7	70.0	2	20.0	1	10.0	3	30.0	1	10.0
	c	会社他	14	11	78.6	6	42.9	3	21.4	3	21.4	1	7.1
③利用者数	a	10名以下	5	4	80.0	1	20.0	1	20.0	1	20.0	1	20.0
	b	11～30	13	12	92.3	8	61.5	5	38.5	7	53.8	4	30.8
	c	31～60	8	7	87.5	5	62.5	5	62.5	5	62.5	5	62.5
	d	61名以上	14	11	78.6	7	50.0	3	21.4	6	42.9	4	28.6
④従事者数	a	10名以下	6	5	83.3	2	33.3	2	33.3	1	16.7	0	0.0
	b	11～30	25	21	84.0	13	52.0	8	32.0	11	44.0	11	44.0
	c	31～60	3	3	100.0	3	100.0	2	66.7	3	100.0	2	66.7
	d	61名以上	3	3	100.0	3	100.0	2	66.7	3	100.0	2	66.7
対象者有無		あり	22	21	95.5	22	100.0	15	68.2	18	81.8	13	59.1
		なし	18	13	72.2	0	0.0	0	0.0	2	11.1	2	11.1